



文楽
in
Hyogo

伊賀越道中双六

親子一世の出会いと別れを描いた名作
人間国宝（人形遣い）の競演！

沼津の段

第一部

鼎談『伊賀越道中双六沼津の段』
の見どころ

児玉竜一（早稲田大学教授）

桂吉坊（落語家）

河内厚郎（兵庫県立芸術文化センター
特別参与）

第二部

文楽『伊賀越道中双六沼津の段』

人形浄瑠璃文楽座

豊竹若太夫（義太夫）

鶴澤燕三（三味線）

吉田和生（人形）

桐竹勘十郎（人形）ほか

兵庫県立芸術文化センター 阪急 中ホール

2026 8/11 (火・祝) 2:00pm 開演 (1:30pm 開場)
A席 4,000円 B席 3,000円 (全席指定 / 税込) 〒663-8204 兵庫県西宮市高松町 2-22 阪急西宮北口駅南改札ロスク / JR 西宮駅より徒歩 15分 (阪急バス 7分)

一般発売	ご予約・お問い合わせ 芸術文化センターチケットオフィス 0798-68-0255 [10:00am~5:00pm 月曜休※祝日の場合は翌日]
5/17 (日) チケット予約	●芸術文化センター 0798-68-0255 https://www.gcenter-hyogo.jp ●イープラス https://eplus.jp ●チケットぴあ https://pia.jp/t/ ●ローソンチケット https://l-tike.com 芸術文化センター会員先行予約受付開始 5/16 (土)

直接購入 芸術文化センター 2階総合カウンター 5/19(火) から (※残席がある場合のみ)

※未就学児童のご入場はご遠慮ください。 ※B席 (2階席) は船底部分が見える可能性があります。 ※日本語字幕あり。 ※やむを得ない事情により、内容、出演者等が変更となる場合があります。 あらかじめご了承ください。 ※プレイガイドの販売はインターネットのみとなります。 お取り扱いについては各プレイガイドにお問い合わせください。

主催：兵庫県、兵庫県立芸術文化センター 企画：河内厚郎（兵庫県立芸術文化センター特別参与）制作：河内厚郎事務所 協力：関西舞台株式会社

日本三大仇討のひとつ『伊賀越道中双六 沼津の段』を上演

江戸時代に、実際におこった仇討のひとつで、伊賀上野鍵屋の辻で討ち取った事件を脚色した『伊賀越道中双六』。仇を追いかけて、鎌倉から始まり、郡山、沼津、藤川、岡崎、伏見、伊賀上野へと旅をする「道中双六」の中でも特に人気の高い「沼津の段」は、義理と情愛の板挟みとなった親子の悲劇が、富士山を背景に展開されます。

出演は、文化功労者に選ばれた吉田和生氏、映画出演などに幅広く活躍する芸術院会員の桐竹勘十郎氏、<切場語り>の豊竹若太夫氏など、豪華キャストでお届けします。

河内厚郎（兵庫県立芸術文化センター 特別参与）

※<切場語り>とは物語のクライマックスを語ることを許された最高位の太夫のこと

【第一部】 鼎談『伊賀越道中双六 沼津の段』の見どころ

児玉竜一

（早稲田大学教授、早稲田大学演劇博物館館長）
兵庫県生まれ。甲陽学院卒。東京国立文化財研究所芸能部研究員、日本女子大学准教授などを経て、早稲田大学教授。早稲田大学演劇博物館館長として、展示等にも携わる。専門は、歌舞伎研究と評論。朝日新聞で2005年から歌舞伎評を担当。共編著に『カブキ・ハンドブック』（1993・新書館）、『映画のなかの古典芸能』（2010・森話社）など。

桂 吉坊

（落語家）
1999年高校在学中に桂吉朝に入門、同年初舞台。桂米朝のもとで内弟子修業。自身の会である「吉坊ノ会」を東京・大阪で開催するほか落語会を各地で行う。雅楽や日本舞踊・能などの古典文化芸能のナビゲーター・対談なども数多く務め、2011年咲くやこの花賞のほか、2023年大阪文化祭賞奨励賞、古典の日文化基金賞、繁昌亭大賞など受賞。著書に『桂吉坊がきく藝』。

河内厚郎

（兵庫県立芸術文化センター 特別参与）
西宮市出身。甲陽学院・一橋大学卒。演劇評論家。『関西文学』元編集長。NHKの番組審議員やラジオセンター21世紀プロジェクト委員、文化庁芸術祭審査員等を歴任。現在、兵庫県立芸術文化センター特別参与、阪急文化財団理事、はびきの市民大学学長。読売賞、咲くやこの花賞など受賞。著書に『淀川ものがたり』、対談集『関西弁探検』など。時事通信の書評を担当。

【第二部】 文楽『伊賀越道中双六 沼津の段』

出演 人形浄瑠璃文楽座

<義太夫> 前 豊竹希太夫 / 鶴澤燕二郎
ツレ 鶴澤藤之亮
切 豊竹若太夫 / 鶴澤燕三

<人形> 吉田和生 桐竹勘十郎 吉田簀二郎 ほか



（義太夫）
豊竹若太夫



（三味線）
鶴澤燕三



（人形人間国宝）
吉田和生



（人形人間国宝）
桐竹勘十郎

【あらすじ】

宿敵河合股五郎を九州へ逃がす手助けをすることになった重兵衛は、沼津で荷担ぎの老人、平作と出会う。身なりも貧しく年老いた平作に同情した重兵衛は荷物を預けるが、平作は足をくじいてけがをってしまう。平作を手当てして自宅まで送り、そのまま一夜の宿を借りることになった重兵衛は、平作とその娘お米との会話から、平作が、幼いころに生き別れた実の父親と気づき、また、股五郎がお米の主人の仇討ちの相手だと知るが、親子の名乗りをあげることもできず、葉の入った印籠、手紙、まとまったお金を置いて立ち去る。真実を知った平作とお米は重兵衛のあとを追い、股五郎の行方を尋ねるが…。



<https://www.gcenter-hyogo.jp>

兵庫県立芸術文化センター
Hyogo Performing Arts Center

先行予約会員へのご登録はこちら



便利なアクセス!!

大阪梅田からも神戸三宮からも
ホールまで15分
（阪急電車特急乗車の場合）

◎ 阪急 西宮北口駅 南改札口 スグ（連絡デッキで直結）

◎ JR 西宮駅より徒歩15分（阪急バス7分）

※ご来場は、電車・バスなどの公共交通機関をご利用ください。

アクセス

